

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成24年度第2回生涯学習センター運営委員会		
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 生涯学習センター 内線4567(757-8481)		
開 催 日 時		平成24年6月22日(金)午前10時～11時40分		
開 催 場 所		生涯学習センター OALルーム		
出 席 者	委 員	大塚啓子、大音裕子、堀田啓子、常行貞臣、石津容子、 安藤真弓、山本朗、渡瀬順之 (欠席:松浦孝治、西谷久範)		
	その他	教育長、教育振興部長		
	事務局	中定久紀、喜田由加里、藤原育子、海野恵子		
傍聴の可否		可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1.教育長挨拶 2.議題 (1)平成25年度レフネック事業について 3.講話「社会教育について」教育振興部長 泉 廣治 その他		
会議結果		別紙審議経過のとおり		

審 議 経 過

1. 教育長挨拶

事務局 只今より平成 24 年度第 2 回運営委員会を開催させていただきます。委員の皆様方には、何かとお忙しい中をご出席いただきお礼申し上げます。なお本日、松浦委員、西谷委員におかれましては所用によりご欠席でございます。本日の議題でございますが、来年度事業について審議していただき、そののち教育振興部長より県の社会教育に携わってきた見識等、披露させていただく予定です。

教育長 改めまして、おはようございます。本日お忙しい中、第 2 回運営委員会にご参集いただきましてありがとうございます。昨日は台風 4 号のため 11 時より大雨洪水警報が発令され、市においても職員が待機しておりましたが、被害等は殆どございませんでしたが、梅雨はこれからが本番です。また、現在、市議会は来週 26 日まで会期中ですが、学校現場の耐震化工事も 27 年度 100 パーセントということで進めております。耐震化工事と今年の電力節電の問題も出ており、そうした取組みをすすめております。市議会の中で 14 人、一般質問として教育の問題を取りあげられましたが、多くは通学路についてです。通学路の問題につきましては、従来から進めておりますが、今一度細やかにと、8 月末をもって地域と警察とともに再度チェックを進めてまいります。

また、生涯学習センターの関係では、昨年度末にアステ川西に移転と話さしていただいておりますが、いまのところでは、当初の予定通りです。様々な意見がありますし、経費のかけかたなど、非常に利便性の良いところに行く反面いろいろございます。7 月の末には、ある程度の方向性を示し、8 月初旬から中旬あたりには、もう少し具体的に進める予定です。生涯学習センターの移転には様々な要素が複合しております。中央北地区整備事業の進捗、公共施設の老朽化、今あるストックをいかに生かしていくか、そしてアステ川西の管理会社の経営が非常に厳しい状況への支援、様々な視点がございます。アステ川西のあり方についても外部の識者を用いて議論しております。あわせて、関係者のみなさんにご迷惑、ご不安な思いをいただいておりますことをお詫びいたします。また、身近な議論も場合によって必要かと思えます。

本日は、生涯学習センター平成 25 年度の事業について事務局の原案をもとに議論をいただきますようお願いいたします。その後、講話「社会教育について」を予定しておりますが、泉部長は市教委から県教委にはいって社会教育を担当しており何かと熟知しておりますので、私自身も後の講話を楽しみにしております。今日はよろしくお願ひします。

2. 議題

(1) 平成 25 年度レフネック事業について

委員長 それでは議事に移ります。レフネック事業について審議をいたします。

事務局から説明をお願いします。

事務局 まず、さる 4 月 14 日(土)、大塚委員長、大音副委員長に公開抽選をしていただき無事、今年度もレフネックの事業を始めさせていただきましたこと、お礼を申しあげたいと思います。2 年次の農学科、文化遺産学科も各々 4 講義を終えております。委員の皆様のおかげで、みな元気に通学しておりますことご報告申しあげます。事務局講義案につきましては例年 12 月にまとめたものをお示ししておりましたが、これは、企画の段階で大学に断られること、実現できないことも多かったために実現可能な内容を見ていただく趣旨でその時期となっております。運営委員会でいただきましたご意見につきましては、2 年後に講義のなかに反映させていただくべく工夫に努めてまいったところです。しかし、生涯学習センター運営委員会のご意見を踏まえて講義を構築するのがあるべき姿かという思いで、このたびは、この事務局案をお示しておりますが、あらかじめ大学や各教育機関に打診や調査はさせていただいておりますが、確約いただいた講義案ではありません。本科につきましては、70 人以上の人数で 40 回、オープン講座につきましては、150 人で 3 回から 4 回の開催に適した内容を検討すべく、一つの案としてあげさせていただいたところです。

それでは、平成 25 年度レフネック科目についてをご覧いただきたいと思います。学科につきましては、従来の学科、科目の選定のとおり踏襲して考えております。学生からの意見、市民のご要望、タイムリー性のある時代の要請や話題性、実績のあるキーパーソン、第 1 期からの学科履歴、そして運営委員会におきまして頂戴しましたご意見を念頭に構成を検討しております。大学等、各教育機関に打診して 40 回の体系的にまとめられるもの、大学側の都合が見込めるものは本科、3~4 回が望ましいものはオープン講座として提案しております。これまでの実績と経費効果、投資効果も鑑みて事務局案として示したものです。それでは、本科から説明いたします。

1 本科

天文学科(仮称)

レフネックでは定期的に宇宙に関する学科やオープン講座を実施しており、前回は平成 16 年度に地球科学科を実施しております。宇宙、地球の気象、生物の進化などにつきましても学術のご紹介があったところですが、その中で「はやぶさ計画」については平成 22 年度にアンサー講義という形でオープン講座として報告をいただいております。レフネックののちに大阪大学サテライトスタジオで公開講座がありました。

東大阪で人工衛星の開発をするなど、非常に夢ある事業をすすめる地域性が関西にはございます、受講生からの希望もあり、今回は宇宙や天文学の研究についてご披露いただきたいと思います。大阪大学大学院理学部宇宙地球科学専攻はこれまでも実績がございますが、今回は宇宙に力点を置いてと考えます。

総合政策学科(仮称)

平成 25 年度は川西市も新しい総合計画がスタートいたします。また、運営委員会の中からも福祉に対するご要望をいただいております。

現在は、社会構造の大きな変化の中にあると考えます。過去におきまして総合政

策学といった学科は大学にはございませんでした。ひとくりに社会学部の中にあつたかと思いますが、近年、社会がダウンサイジング時代と言われるようになり、政治の見方や世の中の要望が高まっているように考えます。これからの世の中を展望し、私たちがもっと幸せになるような政治・政策とはどのようなものなのか。今年度の幸福度講座もその一環の中にあると考えます。また、政治の目的、幸福とはなにかも考えながら、住民参加・ボランティア等、住民の力も社会に生かしていただく元気ある明るい社会の構築の一助となる学科としたいと思います。関西学院大学または関西大学の総合政策のご担当等に依頼し、進めていきたいと思ひます。

予備 映像アニメーション学科(仮称)

近隣では宝塚大学、遠くは立命館大学で非常に力を入れておられます。宝塚大学は川西市との合作映像にて全国広報コンクール3席に選ばれています。川西にゆかりのある大学です。立命館大学は映像、映画文化にたけていてスタジオなどすぐれた施設もあります。学科を離れての課外講座も期待できるということで本科の中に入れております。

本科といたしましては、天文学科と総合政策学科に力点を置きながら予備として映像・アニメーション学科を考えております。

引き続きオープン講座について説明させていただきます。オープン講座は数回でもって内容の濃い講義をしていただくものです。

2. オープン講座

演歌と大衆文化(仮称)

大阪大学に音楽文化にたけた学科があります。日本の大衆文化のなかで音楽に光をあててみました。日本が非常に貧しく不幸で暗い時代、もとは明治時代の政治信条を鼓舞する歌であった歌が演歌の語源ときいております。暗く不幸なものか1960年代70年代に日本の大衆音楽になっていく過程や「日本の心」とまで昇華されたのかを研究されている輪島裕介さんにご講義いただきたいと思ひます。

司馬遼太郎の「街道をゆく」から韓国・中国・台湾を読み解く(仮称)

司馬遼太郎は人気のある作家、特に関西出身ということ、また、シルクロードをテーマにした作品も多数ございます。その中から韓国、中国、台湾を研究しておられる、プール学院大学学長の木村一信さんを中心に調整をお願いしたいと思ひます。

古代史講座「古事記を語る」(仮称)

今年が古事記編纂1300年、各地で研究が披露されております。京都教育大学に古代史古事記の研究で著名な和田萃先生をキーパーソンにとと思ひます。来年は風土記編纂1300年、物語、そのうらに隠れている古代史を読み解くことも興味深いと思ひます。

予備 笑いの力(仮称)

大阪大学に、もともと「怒り」を研究しておられましたが、一転して「笑い」の効用について深く研究された先生がおられます。例えば寄席などで笑いの効用について研

究、それとがんの予防になるといった俗説などを実証されておられる実例をお聞きしたいと思います。

予備 言語文化講座 おもしろ日本語学(仮称)

最近では地域的方言ではなく、たとえば若者ことば、同音異語等、使う場所によってデリケートな日本語の特徴が多くみられる時代と思います。大阪大学言語文化研究科 小矢野先生にオープン講座としてご紹介いただきたいと思います。

3. 課外講座

創設当時から陶芸教室、パソコン教室、郷土史教室をしておりました。パソコン教室と郷土史教室は移転したのちも場所があれば継続できると考えますが、陶芸教室は移転の計画されておりますアステとなりますと1300度近くになる電気窯を置けない懸念もございますので、代わるものとして実技をとまなう食育、語学、絵画を上げさせていただきます。

以上、来年度レフネック科目についての試案です。皆様のご意見をお待ちいたします

委員長 例年でしたら出来上がったものを事後承諾で図らせていただいておりますが、今年是最初の時点で図らせていただきありがたいと思います。生涯学習センター運営委員として生涯学習センター全般のことを審議する委員会がレフネックの短期大学の内容、カリキュラムに関してどこまで関与したらよろしいでしょうか。難しいとこともありません。どのように考えましょうか。

委員 基本的に事務局の提案を審議することは構わないと思います。

委員長 こういう形で提示していただくことはベストですね。

25年度のカリキュラムとして、天文学科と総合政策学科がメインということですが、天文学科という何か古いイメージに結びつきます。宇宙科学が今の時代にぴたりとくると思います。

総合政策学科は非常に政治が不安なときにタイムリーな学科かと思います。

委員 今年、私は別の審議会委員をしておりますが、財政、高齢化など右肩下がりの諸問題の山積した中であって、40回の講義を始められるのなら、私もここにきて勉強したい内容です。この町に住んで良かったと思いたいのですが、あるべき市の姿などいろいろありますし、とてもタイムリーと思います。

委員 本当によくまとまっていると思います。自分達でこのような講座や先生をお願いするのは難しいし感心しております。内容についてはよくわかりませんが、いい講座をもってこられていて、歴代もそうですが、素晴らしいと思って感心しています。

委員 予備の映像・アニメーション学科に興味があります。また、オープン講座の言語文化講座、これは本科に行ってもいいようなテーマに思います。

委員長 予備の部分が今までかつてないような講座がはいっていて、人気が高くなりそうに面白いと思います。レフネックは難しいのが取り柄といわれていますので、事務局としてはレベルを落としそうなのが心配なのかもしれませんが、こちらは講師の先生のお力によるところでしょうか。

委員 予備のアニメーションの方は、受講者の年齢が若返るかと思えますし、活性化につながるかと思えます。

委員 映像アニメーション学科はどうして予備にしておられるのかお尋ねしたいです。講師の関係でしょうか。

事務局 映像学科は、立命館大学を中心に最近に創設されています。もともとの学科の狙いは、プロデューサーの養成といった技術的なものを大切にされているようで、大学ではスタジオを設けています。レフネックは講義が中心、70人以上の学生を対象とすると、大学で主にされている実技は紹介だけになり、学生にとって不完全燃焼の部分も出てこようかと考えております。まだ具体的な交渉はしておりませんが、40回の講座を繋いでいくには不安があるかということで予備としております。

委員長 実技が入ると大学の現場に行く必要が生じようかという気がします。

委員 事務局が言われるとおり、この分野は非常に新しく、ここ10年ぐらいに出てきました。日本の社会文化が実学的なものへと移行していく中で、こういった学科の狙いは、プロデューサーや技術者の養成、技術習得等が主になります。大学にも講義の部分もありますが、映像の技術やカメラの技術については、学生に実習をさせます。話す内容だけになると薄っぺらいものになるかと思われまます。そこに難しさがあって予備にされているのではと思います。

委員長 実技に比重が高くなると思います。才能にかかわってくる学科ですね。誰でもというわけにも参りませんか。心配があります。

委員 宝塚大学には松本零士さんがおられるので、そういった方に来ていただけると人気が出ると思います。無理だと思いますけどね。宇宙の話も一緒にしていただくといいと思います。

委員 映像学科は、本科が無理でもオープンでいかがでしょうか。

委員長 オープンで是非にと思います。こういった学科の企画は画期的に思います。

事務局 宝塚大学は、マスコミや芸術関係で取りざたされることの多い特色のある先生を客員教授として揃えておられるようです。客員教授の中には、大学に来られるのは年1回

程度、講師として招聘するのは難しい先生がおられるとも聞きます。一人の先生に飛びつくのは難しいかと思われます。

委員長 運営委員にも音楽専門の方もおられますが、学問とあわせて芸術部門などが求められてくるかもしれません。教室の形態もあろうかと思いますが、移転に伴い夢もふくらんでくるようです。捨ててしまうのも惜しいので、何とか生かしていただきたいと思います。

委員 演歌の講座は、木津川先生もお好きかもしれません。
オープン講座は魅力的なものが揃っていると思います。笑いの力で免疫力が高まる、おもしろ日本語学など、今の時代にふさわしくていいと思います。若者言葉で「つけまつけ」を「田植え」というのをご存知でしょうか。気軽に楽しめると思います。

委員 予備のメニューは、来年以降も検討を続けられる予定でしょうか

事務局 今年忙しいかと思われる先生もおられますので、来年度も機会をみて交渉したいと思います。

委員 見させていただいて、いい企画が出たと思います。天文学科は、委員長のおっしゃるとおり宇宙としたほうがよいかもしれません。総合政策は街づくりに限定するよりも世界的にも見てよいかと思います。映像アニメーションは若い層を取り込む公算でしょうか。新しい考え方と方向性を感じます。古事記は公民館も後記講座として古代史 3 回を計画しますが、好きな方は多いと思います。おもしろ日本語学については、高齢者大学に平成 21 年から、ことば学科はあります。話す、聞く、そして笑いも入れておりますが、これも面白いです。1 分間スピーチの実技も取り入れております。

委員長 日本語学、こちらの場合は、学問として取り上げることとなりますが、公民館の方が流れてくる可能性がありますね、ことばあそびをなさっている方が。

委員 40 回をどう位置づけていくかが問題です。笑いの力は 4~5 回が適当、司馬遼太郎は、むしろ 40 回がふさわしいのではと考えます。この方の考え方は、いまだに検証されています。古代史はどこでもしておられます。映像アニメーション関係では、40 回はつらいかもしれません。実技が多いですが、立命館大学、宝塚大学よりも大阪芸大のほうが歴史も古いので座学的なものや理論はしっかりできていると思います。組み立て方では難しいかもしれませんが一大学に限らずに複数の大学をお願いして調整できると、分野で住み分けしていただいて、良いものができるだろうと思います。これは一つの提案事項です。

委員長 レフネックの初期、一学科にいろいろな大学の先生が入り混じっていて、今のように一つの大学をお願いすることはなかったですよ。途中からこういう丸投げ式になりましたけど、以前は事務局も大変だったみたいです。先生や大学によって取り組み方、内

容がちがうので、難しいものもあろうかと思いますが、よく選んでおられると思います。統制がとれるというメリットもありますしね。ご意見にもありましたが、司馬遼太郎は40回でも可能かとも思います。レフネックでは、一人の作家を本科として40回にした実績は今までにないと思います。

事務局 レフネックがあまり認知度のなかった頃、文学学科では4~5回で作家を分けたようですが、そのたびに出席率が上下したようです。全体的に40回一人の作家をとらまえたこともあったかもしれませんが、文学につきましても、以後10年以上取り組まない時期が続きました。数年前、文学を取りあげたときには阪神という地域をとらまえて木村学長にお願いしました。音楽、芸術、文学といった学科は指向性のある学科と考えますが、司馬遼太郎の場合は地域性もあり人気も高いです。「竜馬がゆく」といった作品をとらまえるのではなく、今回はシルクロードを主題と考えております。

委員長 一人の作家をとらまえるのは難しいということですが、司馬遼太郎は男性の人気も高いと思います。オープン講座には、いいですね。ファンも多いです。人気度も高いと思います。

委員 源氏物語は公民館でもすごい人気ですよ、長い文学を40回とおしてすることはできませんか。人気もあります。

委員長 グループの色彩が濃くなってきます。好きな人だけが集まる懸念があります。公の場できりあげるのにネックとなります。オープン講座で取り上げて、次の機会は受けた方が判断されるといいと思います。

委員 あまり人が集まらないかもしれませんね。

委員長 一人の作家を取り上げると好きな人にとってありがたいけれども批判的な方もいるので、レフネックに批判もくるかと懸念します。

委員 文学には人気があります。年3回を毎年する公民館ではいいと思いますが、40回とおしは、ちょっとどうかと思います。人は来るとは思います。

委員長 他のご意見はありますか。

委員 天文学というのは、天文学でいいと思います。

事務局 地球科学、宇宙と言うと、学者の先生方は地球の学問を持って来られます。学科の中で火星や宇宙の講義になると学生は非常に喜びます。時には宇宙の夢を聞かしていただく学科もいいかと思います。天文学とすると、すこしレトロな感じもしますが。

委員長 広がりを感じますね。やっぱり天文学でよいと思います。ちょっと固定観念がありました

ね、私たち。

委員 関連ですけれども、この学科は、理学系だけでまとめていかれるのでしょうか。もし大阪大学に依頼されるのなら、歴史系もあります。天文学はかなりさかのぼります。すでに飛鳥の高松塚にも星座の記述があります。広く考えると、韓国中国といった渡来の関係もありますから、非常に幅広いと思います。時系列の企画も考えられるかと思えます。神話や神社もありますから、おもしろいです。そうすると、天文のほうが、むしろ、びたっときます。

委員長 そのあたりも、どうぞお考えください。
それでは、泉教育振興部長のお話に進めたいと思います。よろしくおねがいたします。

3. 講話「社会教育について」 教育振興部長 泉 廣治

その他

委員長 レフネックは、高度な難しいことを勉強できて、入学には抽選もありますが、リラックスして学べると思います。結局、何が足りないかということ、自分の中で習熟度が問われないということ、試験の型式がないだけですから、習熟度は自分で判断する以外にないものですから、そのところでちょっと物足りない部分ができていると思うのと、また、生涯学習の中にあって 30～60 代前半の人が割に入っていないことで、ここは、皆さんお年寄りと感じます。20 年続いてきましてここ平均年齢が 70 歳ぐらいになっています。上限かと思いますが、若い人がなかなか見られません。お勤めのある方は無理でしょうけれど、もう少し女性を取り込めると思いますが、生涯学習の中にもう少し若い方を取り込める雰囲気になればと思います。

事務局 社会教育も生涯学習もそうですが、若い子ども達は学校へ行きます。大学を出てしまうと企業内研修やレベルアップのためにと専門学校で生涯学習をしています。教育の場を外れてしまった人が集まると、どうしても高齢化が見られます。これがポイントです。高齢者大学は、あきらかに「高齢者の生きがいづくり」という県の施策から始まっていますが、レフネックはオープンです。ここで壮年と高齢者との交流を実現していくと、公民館とはちがう大きな存在意義が出てくるのではと思います。
学んでいただいたことの到達度をはかるというのは、日本の学校教育の弊害です。学んだことの効果を測定して採点するというのは、日本の学校教育の弱点であり利点です。高齢になられても到達度をはかるというのが、どうしても気持ちの中にあるとすれば、そうではなく、学んだことを活かす、地域に生かす、あるいは自分を再発見するためのツールとして自分のために使っていただければと思います。

委員長 シアワセ度ですよね、いうなれば。

委員 いま、私たちの文化活動も文化観光交流課が担当になっていますが、市民の側から言

いますと、教育委員会のほうが居心地がよかったと思います。文化も観光も国際交流も文化活動もすべて所管が3階に固められています。対応の人数も少ないです。

委員長 どのように変わったのでしょうか。

事務局 教育委員会から所管が市長部局市民生活部になりました。

委員 そうです、単なる便宜や、まあ、経費の節約とは思いますが、皆さん、前の方がよかったといわれます。

事務局 これは、川西だけでなく兵庫県やいろいろなところで見られる傾向です。文科省は学習が起これば学習だと生涯学習の論議をたてました。みなさんが楽しく心豊かに活動していることは学習ではなくて、文化活動スポーツ活動という切り分けもできます。そこが曖昧で混乱をした原因かと考えられますが、例えば、もし、公民館を市民生活部へ移すとすれば、公民館という規定は社会教育法のなかにありますから、公民館という名前で、あるいは、そのままの機能でコミュニティセンターといった生活地域拠点としてそのまま移すこともできます。その部分でたとえば体育館や文化ホールがその範疇にないというよりは、教育・文化の中の文化スポーツをもっと効率的に市民生活の中に位置づけてより豊かにといった組織改革だったとは思いますが。

委員 その意味合いから言うと、社会活動の中で、公民館は教育委員会にあって、文化活動は観光交流課の中にある、非常に曖昧である、この意識は大きいです。

委員長 チャリティーをしたとき、みつなかホールはスポーツ振興の中に組み込まれていました。スポーツ振興のなかに音楽関係もあるってことに、違和感を覚えます。

委員 大塩体制の経済削減の影響かと思います。

委員長 文書として音楽コンサートの催しに、スポーツ振興財団みつなかホールと書くのには、違和感がありますよね。

委員 話をすればいいことだと思います。後援をいただくときにきちりと話をつけられるようにと思います。

根底は財政かと思いますが。

ここで総括しておきたいのですが、レフネックができた趣旨に戻っていただきたいと思っています。一大学を、といった設立当初の思いを押さえたうえで、移行すべきところは手順をふんでいかなないと。当時の文科省は少子高齢化が見えていたので、高齢者の行き場を探っていました。今は過渡期と思っていますが、高齢者の人材力の活用が発端にあって、まずはこういう生涯学習に持ち込んで、学んでグループをつくって時間をつぶす、さらにもう少し地域に貢献できるように、しかも財政を食わないように。うまく進めないと「何でつぶすのか」という話になってしまうと思います。

事務局 レフネックをつぶす、つぶさないは何も考えていません。トータルで様々なものを見直さないと先へ進めない状況であるのは、間違いのないと思います。生涯学習の理念ができた最初は学歴偏重の社会を是正するというのが一番大きな大義名分でした。つまり、学歴がすべてを決めて21歳で人生が変わってくるのはおかしい、本当に大事なことは、社会に出てからどれだけ学び続けるか、学びの蓄積をもってその人のキャリアを考えていく、そういう社会にしていかなければならないというのが生涯学習の出発点でありました。例えば高齢者対応しているところでは生涯学習が大事といたしますし、幼児教育担当も少子高齢化のなかで必要と言ひ、スポーツや情操教育も群がって非常に大きな概念の生涯学習の理念を作らざるを得なかったというのが最終的な裏事情と考えます。

ご指摘いただいたように、レフネックは市民大学として公民館講座とは違った位置づけで、市民の学びの場として大事にしていかなければいけないと思います。内部でも、単なる機能として切り取ることは難しい、組織とともにレフネックは存在することを念頭に今後を考えたいと話していたところです。

委員長 なぜ、レフネックができたのか理念に立ち戻っていただくとすると、生涯学習センター＝レフネックがつかずきなのです。何をしているのかと。設立当初は、斬新的な市民大学ができたと各地で評判になっていろいろ行政の方が見学に大勢来られた経緯もありました。生涯学習センター＝レフネックという意識が育ったその傍らで、他の事業を育てていないような感じです。貸館みたいな形でグループもあり、パソコンや陶芸教室もあるようですが、過去に生涯学習センター運営委員として見学に行った羽曳野のほうでは、建物自体もカラフルで個性的でした。技術を習得できる非常にオープンな施設になっていて若者も多くおられた。お年寄りも殆んどおられなくて、技術も習得できるシステムが生涯学習センターにはあるのだなと思って帰ってまいりました。今、この建物でそこまで求められないとは思いますが、レフネック以外の働きも視野に入れて幅広く考えていく必要があるのではと私は思っています。あまりにレフネックだけに頼りすぎと思っております。財政も苦しいのでしょうから、新しいことを考えていくうえでそれなりにお金をいただくことも考えていただきたいと思います。まだお話したいこともありますが、今日はこれで散会といたします。

その他特記なし

閉会 12時